

# 対人援助学のひろがり<sup>註</sup>

望月 昭

立命館大学人間科学研究所所長

学術フロンティア研究事業代表

「対人援助のための人間環境デザインに関する総合的研究」は、2000年度から2004年度の5年間にわたって、立命館大学人間科学研究所の所管の下で、私立大学高度化推進事業学術フロンティア推進事業として行われてきたプロジェクトです。このプロジェクトは、立命館大学における「人間科学・対人援助学分野」の研究の中心として、大学院学生等若手研究者の研究参画の場も提供しつつ特色ある成果を創出してきました。

その成果発表の一環として、「対人援助のひろがり」というタイトルのもとで土曜講座を使わせていただくということでございます。プロジェクト全体のテーマの名前である「対人援助のための人間環境デザイン」というのは、「人が人を助ける」ことを総合的に科学的に扱っていかうという主旨を持つものです。これまでも、人を援助することに関しては、心理学、教育学、社会福祉学などの学問領域でなされてきました。ここでは既存の学問領域の仕切りを一旦置いておいて、現実には障害のある方、援助を求めている方を助けることを実践的にやっていく場合、どんなことを必要とするか、どんなことを職業的にやっているか、現場の実践的な観点から見直して、今までの既存の学問体系の割り振りからでは見つけられなかった視点や内容を洗い出そうというものです。対人援助に携わる人たちが、どう「連携」していけばいいか。ばらばらな方法論ではなく、うまく相互に伝達したり、共同作業をするには、どんなやり方があるかを考えていくわけです。そこから、「対人援助学」という、実践や研究の知を、「融合」した新しい専門領域ができるのではないかと目論んでいます。

立命館大学では、この学術フロンティアのプロジェクトを契機として、人間科学研究所を中心に、この「対人援助」のありかたについて、研究者や実践者そして学生

も含めて皆で考えていこうという流れでやってきたわけです。そのために、研究や実践だけではなく、常に社会に公表して、ディスカッションに参加してもらい仕組みをつくっていききたいということで、学術フロンティア研究の成果を報告したり、また作業経過の報告や情報交換をしたり、依頼しあうためのホームページをつくっております。HSP(HSP:ヒューマンサービス・プラットフォーム)という名称のサイトです。  
(<http://www.human.ritsumei.ac.jp/project/index.htm>)。

今回、5回にわたって学術フロンティア研究の全9つのプロジェクトチームの中から、4つのチームの成果紹介を土曜講座で行います。第一回は、バリアフリープロジェクトの東山篤規先生から『「天橋立股のぞき」はなぜ美しいのか?—感覚統合の視点から考える—』、第二回は、臨床教育プロジェクトの中川吉晴先生が「ホリスティック臨床教育学がめざすもの」、第三回は福祉情報プロジェクトの高橋先生から「地域生活と福祉情報」、第四回は高齢者プロジェクトの土田宣明先生から「行動調節機能の加齢変化」というタイトルでそれぞれ発表してもらいます。そして、第五回には、最前線で援助実践を続けておられる松原平先生に、というタイトルで発表いただきます。松原先生は、当プロジェクトの中の、コアプロジェクト・自己決定とQOLという私も参加しているチームの研究協力者として初期から参加していただいています。今回は、現状の対人援助実践の課題とともにこの学術フロンティア事業に対するいわば第三者評価の形で発表していただくというものです。

対人援助という実践作業に関わって、基礎的な研究から社会制度まで、実に幅広い内容となりますが、当プロジェクトの主旨は、まさにこのような多様な領域の専門家が、「人がより良く生活する」ためにはどのような人的・物理的環境が必要か、という目的のもとにそれぞれの専門性を活かしながらひとつに集まるということです。

ご意見やご批判については、HSP等を通じてお寄せいただければ幸いです。  
注) 上記の記述は、今、土曜講座シリーズ最終会に、会場で発表されたものを短縮・修正したものである。